

大学のライティング教育から考える職能開発

蝶 慎一（香川大学 大学教育基盤センター 准教授）

講師略歴

専門は高等教育論、学生支援、大学史。北海道大学教育学部卒業後、2018年に東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程修了。博士（教育学）。2012年に国立大学協会特別研究員、2015年に大学評価・学位授与機構研究開発部特任研究員、2016年に大学改革支援・学位授与機構研究開発部助教、2020年に広島大学高等教育研究開発センター（RIHE）助教を経て、2022年4月より現職。日本学生支援機構の学生支援の取組状況に関する調査協力者会議委員、国立大学協会政策研究所客員研究員なども務める。香川大学の全学共通教育、FD、TA、教学IRを始めとした諸活動や研修等を行う。主な研究関心は、日本、アメリカ、カナダの学生支援、教養教育、TAなどに関する歴史研究・国際比較である。

プログラム概要

大学におけるライティング教育（特に、アカデミック・ライティング）はきわめて重要になっています。昨今、大学教育に関するニュースでは「生成 AI」の利用について少なくない大学が諸方針を公表したことが報じられました。これまでも授業で課されるレポート、ゼミや研究室での卒業論文の執筆に代表される「書く力」の育成が問われてきました。一方で、こうしたアカデミック・ライティングにおいて、学生たちはどのような問題や困難、課題を抱えているのでしょうか。大学のライティング教育をめぐって、どのような職能開発の新たな可能性が考えられるのでしょうか。

このプログラムでは、日本の大学におけるライティング教育の現状と特徴について先駆的な取組事例を紹介することで、参加者の皆様の大学等におけるライティング教育をめぐる職能開発の可能性を試行的に考えるきっかけとしたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

準備物・事前課題

特になし

主な受講対象者

- ・ライティング教育（アカデミック・ライティング）をめぐる取組事例に興味関心のある教職員
- ・ライティング教育（アカデミック・ライティング）をめぐる職能開発に興味関心のある教職員
- ・大学のライティングセンターやそこの学生スタッフの活動に興味関心のある教職員
- ・学習支援に興味関心のある教職員

到達目標

1. 日本の大学におけるライティング教育（アカデミック・ライティング）の現状と特徴を理解することができる。
2. 他大学のライティング教育（アカデミック・ライティング）の取組事例を把握し、その特徴と可能性を抽出することができる。
3. 自大学のライティング教育（アカデミック・ライティング）をめぐる職能開発の可能性を試行的に考えることができる。